

石 音

発行 石狩管内教育研究協議会
音楽部会事務局
文責 北広島市立西の里小学校
岸本 さおり
令和3年 4月 発行

【見せましょう 音楽の底力を】 ～2021年度始動～

「群青」

あの日見た夕日 あの日見た花火
いつでも君がいたね
当たり前が幸せと知った

響けこの歌声 響け遠くまでも
あの空の彼方へも
大切な全てに届け

「見せましょう 野球の底力を」という言葉を残したのは、10年前、当時「楽天イーグルス」に所属していた嶋選手です。東日本大震災直後のプロ野球の開幕試合でのことでした。東日本大震災から10年となった2021年。決してあの日を忘れることはできない、いえ、忘れてはいけないという思いを誰もが抱いたことと思います。被災した子供達も、現在は成人して語り部をしていたり、復興のためにボランティアを続けていたり、お父さんを亡くした小学生が今はプロ野球選手になって活躍していたり……。被災した子供達の成長した姿を見ると、くじけずに前向きに頑張っ

てきたのだと感心させられます。

そして、左にある歌詞は、みなさんもお存知のとおり、被災した福島県南相馬市の子供達の想いを綴った詩です。“当たり前が幸せと知った”の歌詞からは、今年1年、そして収束の兆しが見えないコロナ生活にも同じことが言えるように思います。当たり前で生活していたこと、当たり前で合唱をしていたこと、それは幸せの連続だったと思い知らされます。

それでも季節はめぐってきます。陽ざしが明るくなり、春の風がやさしく顔を出しています。私達も前を向いて新しい希望を抱き、新たな出会いに心はずませ、新たな一歩を踏み出していかなくてはなりません。コロナ禍ではありますが、子供達が、音楽の学習を通して、心ときめいたり互いに感動しあったりする経験をたくさん味わうことができる1年にしたいものです。

さて、今年度の研究主題は「豊かな感性に ときめく心を」サブテーマは「互いに学び合い、高め合う多様な学習活動の在り方」です。研究が1年延びたことにより、3年次研究の2年目となります。昨年度の音楽授業は暗中模索状態だったのではないかと思います。今年度はこの【多様な学習活動の在り方】を意識しながら、コロナ禍の音楽授業をパワーアップさせ、子供達が「もっとやりたい。」「もっと聴きたい。」と思える音楽の授業をめざしてほしいと思います。それが、きっと子供達の生きる力につながるはずです。

今年度は、安心・安全に配慮しながら、二次研究協議会や実技研修会を行う予定です。部会員みなさんで生きる力につながる授業づくりを研究していきましょう。これからも、コロナ収束を願いながら、部会員全員で知恵と工夫を出し合い、研究テーマに向かってよりよい音楽の授業をつくっていかれたらと思っています。

新年度になり役員も新しいメンバーとなりました。役員全員で、気持ちを新たに皆様の活動を支えて参りますので、1年間どうぞよろしくお願ひいたします。

見せましょう 音楽の底力を

石教研音楽部会 部長 小原 砂織

I . 研究主題

豊かな感性に ときめく心を

～互いに学び合い、高め合う多様な学習活動のあり方～

II . 研究目的

1 . 研究経過

2020年度は「豊かな感性に ときめく心を」というテーマのもと、児童生徒が多様な学習活動を通して、これまで身につけてきた力を活用し、感性を働かせ、生活と社会と関連づけながら、主体的・対話的・協働的な学びができるような授業を実現することを目指し、授業実践や研修会を積み重ねるべく研究の初年度をスタートさせようとしてきました。

しかし、国内の新型コロナウイルス感染症の感染拡大から、昨年度末の3月2日（北海道では独自に2月27日）から政府の要請により全国一斉の臨時休業が行われ、その後、春季休業を経て新学期がスタートしたものの、4月16日に全都道府県が緊急事態措置の対象になったことなどを受け、大部分の学校が5月末までの臨時休校を行いました。さらに6月になり学校が再開された後も、感染およびその拡大のリスクを可能な限り低減するという観点から、様々な制約がある中、各学校で工夫をしながらも教育実践を行ってきました。

石教研全体としても今年度は研究協議会の一斉開催が中止され、あわせて各市町村での部会協議も中止される中、研究の推進日程を10月16日までの取り組み前半、それ以降の取り組み後半と設定し進めることとしました。

取り組み前半は公開を伴う授業研究を行わず、個人研究で「新型コロナウイルス感染症対策を講じた授業実践」をテーマにレポート作成を行うこととしました。今年度は新型コロナウイルスの影響で、学習内容がかなり制限され、現時点では実践できない内容も多いことから、このような状況下でも実践できた内容を「授業実践報告」として、各学校で行った学習内容や教師とのかかわり、留意点、成果と課題について明記したものを、石教研音楽部会ホームページ上で交流しました。

取り組み後半では、筑波大学附属小学校教諭である高倉弘光氏を講師に「新学習指導要領の趣旨とコロナ禍の音楽授業」をテーマにして、12月11日に理論研修会を行いました。新学習指導要領が小学校で全面実施となり、コロナ禍の影響で音楽の授業づくりについて困惑している状況の中、これからの授業がどう変わり、あるいは変わらないのかについて、ZOOMを通じて東京からお話をいただきました。研修会の中では学習指導要領の「目標」の中の3つの資質能力について、また、「内容」について扱う題材、教材で、どのようなことに気付かせ（知識）、どのようなことを考えさせ（思考）、どのような技能を身に付けさせたいのか（技能）、あらかじめプランを立てることが重要である、お話を聞くことができました。

2 . 主題設定の理由

新学習指導要領が小学校では昨年度から、中学校では今年度から全面実施される。

中央教育審議会答申において「予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのように社会や人生をよりよいものにしていくかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身につけられるようにすることが重要である」とされた。

また音楽科では改定における基本的な考え方として「感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見出したりできるよう、内容の改善を図る」、「音や音楽と自分との関わりを築いていけるよう、生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化について理解を深める学習の充実を図る」とされた。

新学習指導要領では音楽科の教科の目標を「表現及び鑑賞の（幅広い）活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽（、音楽文化）と豊かに関わ

る資質・能力」〔※（ ）内は中学校の目標〕を育成することを目指すとされた。また、学習指導要領解説音楽編には「客観的な理由や根拠を元に友達と交流し、自分の考えを持ち、音楽表現や鑑賞の学習を深めていく過程に音楽科としての学習の意味がある」とある。

音楽科において児童生徒一人ひとりの個性や興味・関心を活かした歌唱、器楽、創作、鑑賞の多様な活動を行う中で、音や音楽、言葉などによるコミュニケーションを図りながら学習活動に取り組み、課題を解決していく中で身につく力は、未来を拓く子どもたちに最も必要な力の一つである。また、協働を通して音楽科のねらいに迫る資質・能力を育てていくことが、子どもたちがこれからの世の中をより豊かに生きていくための大きな力の一つとなるに違いないと考え、この主題を設定した。

3. 研究仮説

表現及び鑑賞の活動を通して、他者と協働しながら（学び合い、高め合う）多様な学習活動を行うことで、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情（ときめく心）を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養うことができるのではないかと考え、この主題を設定した。

Ⅲ. 研究内容

小学校…互いに学び合い、高め合う多様な学習活動のあり方の研究を行う。

- 第二次研究協議会での中心サークルによる授業を通して、研究主題に迫った授業を作り、指導方法を深める。
 - ・協働的な学び
 - ・対話的で深い学び
 - ・言語活動の学びの充実
- 6月に講師を招き、実技研修会を行う。

中学校…互いに学び合い、高め合う多様な学習活動のあり方の研究を行う。

- 第二次研究協議会での中心サークルによる授業を通して、研究主題に迫った授業を作り、指導方法を深める。
 - ・協働的な学び
 - ・対話的で深い学び
 - ・言語活動の学びの充実
 - ・生活や社会における音楽の意味や役割の学び合い
- 7月に講師を招き、実技研修会を行う。
- 11月に講師を招き、小・中学校合同の理論研修会を行い、研究を深めていく。

Ⅳ. 研究方法

1. 研修会

- (1) 今年度（2021年度）の研究の進め方に基づいた実技指導研修会を開催する。
- (2) 課題を明確にし、指導の手がかりを得るために、理論指導研修会を開催する。（開催場所・内容は、次年度の第二次研究協議会開催市町村部会を優先する。）
- (3) 今次研究に有効な教材や指導事例の紹介、部会員の声や問題提起を盛り込むなど、より開かれた部会誌『石音』の発行に努め、共通理解を図る。

2. 個人、市町村部会

- (1) 研究主題解明に向けて研究組織・研究の進め方について考えて確認しあい、年間構想を立案する。
- (2) 学習会や実技研、授業研などを位置づけて、研究主題の実技・検証を行う。また、その資料は、全会員に還流する。
- (3) 共同研究の利点を生かし、実践検証した研究の成果を市町村ごとに一つのレポートとしてまとめ、第二次研究協議会で発表し、全体で交流し検証する。市町村研究推進委員は、第二次研究協議会に向けて、部会員一人一人の役割を明確にし、部会員が研究意欲を高め、推進できるよう連絡を密に行う。

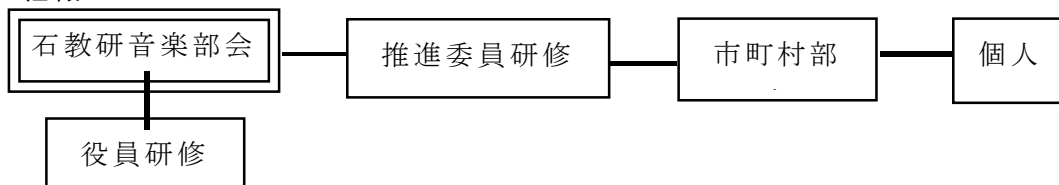
3. 専門部会第二次研究協議会

- (1) 第二次研究協議会開催市町村部会においては、公開授業、学習会、課題解明に結びつく研修の場を事務局と連携を取りながら設定する。そのために、開催市町村部会

- が中心になって研究グループを組織し、共同研究を進める。各推進委員も公開授業等の共同研究者として、推進委員研修会の時に指導案を検討する。
- (2) 市町村部会でまとめられた研究の成果を各市町村でレポートとしてまとめ、発表の方法を考え全体で交流し、検討する。

V. 研究体制

1. 組織



2. 各役員の業務分担

- 部長 …①部会業務全般（渉外業務も含む）
②あいさつ業務，巻頭言4月・2月
③『石教研情報』の原稿作成
④第二次研究協議会（小学校）のアンケート用紙作成・集約
⑤講師対応
- 副部长 …①研究計画立案，全般的研究方法の検討
②ホームページ作成
③第二次研究協議会の小・中合同合唱交流会の計画
④第二次研究協議会（中学校）のアンケート用紙作成・集約
- 研究員 …①『石狩の教育』執筆，小・中交代で研究員研修会に出席
②実技研修会と理論研修会のアンケート用紙作成→集約→事務局長に提出
③第二次研究協議会での学習会・市町村交流の計画
④指導案の書き方(小学校)、レポート作成について(中学校)の案内を出す
- 教育課程研究委員…①『石狩の教育』（教育課程関係部分を作成し，研究員に提出）
②実技研修会，理論研修会の記録と終了報告書の作成
→センターと事務局長へ送付
③教育課程の見直しと作成
- 事務局長 …①役員・推進委員との連絡・調整
②部報の原稿の集約・作成
③各研修会の案内状・資料作成
④石教研事務局との連絡・調整
⑤実技研修会・理論研修会の講師との連絡・調整
⑥実技研修会・理論研修会，第二次研究協議会の開催要項の作成
⑦実技研修会・理論研修会の出席簿・参加者名簿，旅費支払い依頼書の作成
⑧実技研修会・理論研修会，第二次研究協議会の会場校との連絡・調整
⑨実技研修会・理論研修会，第二次研究協議会の借用書・礼状の作成，発送
⑩第二次研究協議会の学習会で使用する機材の確認
⑪第二次研究協議会の総括
⑫専門部会研究アンケート作成・集約・提出

- 事務局次長 …①一般会計
 ②予算要望書の作成
 ③研修会の記録作成
 ④研修会準備（旅費等）

* 第二次研究協議会の前日準備については、基本的に全役員参加で行う。

VI. 年間計画

月	研修会等（情報誌『石音』は適宜発行）
4 月	市町村研究協議会・推進委員研修会①・役員研修会①・ 専門部会第一次研究協議会
5 月	推進委員研修会②・役員研修会②
6 月	実技研修会（小学校）
7 月	実技研修会（中学校）・推進委員研修会③・役員研修会③
8 月	
9 月	市町村研究協議会
10 月	役員研修会④・拡大推進委員研修会④・専門部会第二次研究協議 会
11 月	役員研修会⑤・推進委員研修会⑤・理論研修会
12 月	役員研修会⑥
1 月	推進委員研修会⑥・役員研修会⑦
2 月	市町村研究協議会
3 月	

（文責 笹谷直之）

2021 年度役員紹介



- < 部 長 > 江別市立江別太小学校 小原 沙織
- < 副部長 > 江別市立中央中学校 深谷 仁史
- < 事務局長 > 北広島市立西の里小学校 岸本 さおり
- < 事務局次長 > 千歳市立千歳第二小学校 島田 洋輔
- < 小学校研究員 > 石狩市立花川南小学校 赤井 諒子
- < 中学校研究員 > 北広島市立西の里中学校 中野 いづみ
- < 教育課程研究員小学校代表 > 恵庭市立和光小学校 菅原 直美
- < 教育課程研究員小学校 > 恵庭市立恵庭小学校 牛渡 聖子
恵庭市立和光小学校 井上 陽子
江別市立上江別小学校 佐藤 香織
江別市立若葉小学校 佐々木 かおる
北広島市立大曲東小学校 菅野 洋美
- < 教育課程委員中学校代表 > 北広島市立東部中学校 小野寺沙耶子
- < 教育課程委員中学校 > 北広島市立大曲中学校 渡辺 裕子
北広島市立緑陽中学校 佐藤 詠子
- < 千教振推進委員 > 千歳市立末広小学校 長内 理枝
- < 恵教研推進委員 > 恵庭市立恵明小学校 成島 優一
- < 広教研推進委員 > 北広島市立北の台小学校 大島 祐子
- < 江教研推進委員 > 江別市立北光小学校 阿部 郁
- < 当新研推進委員 > 当別町立当別中学校 高橋 瞳
- < 石教振推進委員 > 石狩市立花川小学校 寺元 麻美

宜しく申し上げます。